

井上 準之助 とゴルフ

井上 準之助が日本銀行のニューヨーク支店に在勤中、新井領一郎氏にゴルフを教えられ、ゴルフは中年のビジネスマンの健康に最適のスポーツと考え、日本人によるゴルフ倶楽部の創立に乗り出しました。

井上準之助はまず、社交グループ「東京倶楽部」の会員から有志をつのって「東京ゴルフ会」を組織。これを母体として日本人による日本人のためのゴルフ倶楽部として大正2年(1913年)、「東京ゴルフ倶楽部」を設立しました。

コースは東京の駒沢(現在の駒沢オリンピック公園)で、摂政宮時代の昭和天皇が英国の皇太子、プリンス・オブ・ウェールズ殿下との親善ゴルフを楽しまれた記録も残っています。

城山三郎氏の著書の中に井上準之助の言葉が紹介されています。



▲日本ゴルフ界の父、井上準之助氏のティ・ショット

その言葉は「only regret bad score」=「唯一の後悔は悪いスコアだけ(それ以外は全て楽しい。)」ゴルフを愛していたことが伝わってきます。

日本ゴルフ協会会長を務めるなど、日本ゴルフ界の父と称されています。



井上 準之助 略歴

大分県日田市に生まれ。大正・昭和期の政治家、政治家。東京帝国大学卒。明治29年(1896)日本銀行に入行。明治30年(1897)に英国・ベルギーに留学。帰国後、大阪支店長・営業局長などを歴任。44年(1911)横浜正金銀行に入り、頭取を経て、大正8年(1919)に日銀総裁に就任した。大正12年(1923)に山本権兵衛内閣の大蔵大臣となり、翌年貴族院議員に勅選。昭和2年(1927)高橋是清大蔵大臣の下で再び日銀総裁となる。昭和4年(1929)浜口雄幸内閣の大蔵大臣となり、金解禁を実施。昭和6年(1931)に辞任後、民政党総務となるが、血盟団事件で暗殺されました。